

ことば
言は肉となって、
わたしたちの間に宿られた

ヨハネ 1 : 1 - 18



司祭 ヨハネ 井田 泉

2018年12月30日

降誕後第1主日

奈良基督教会にて

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」ヨハネ 1:14

これはクリスマスの出来事を一言であらわしている言葉です。神の言葉は、肉体、人の体となって、わたしたちの間に宿られた。

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」ヨハネ 1:14

これはヨハネ福音書独特の表現で、人を哲学的な思索へと導く響きを持っています。けれどもわたしは今日はそのようにはなく、この言葉から素朴な事実を受けとめて、感じてみたいのです。神の子は、人の子となられた。神から来られた方は、今、赤ちゃんとして飼い葉桶の中に、あるいはマリアさんのふところにおられる。その赤ちゃんの体は体温があって温かい。「肉となった」のですから、その体は柔らかく温かいのです。それを見る人、その体に触れる人は、心が優しく、温かくされる。

想像してみたい。わたしたちは赤ちゃんのイエスさまを見つめる。触れる。赤ちゃんのイエスさまを抱く。変化が起こってきます。こわばっていたわたしの心も体も、柔らかく温かくなっていきます。

人の体をもって生涯を始められたイエスさまは、30年あまりの人生をその体をもって生きていかれました。少年イエスの体に触れた人たち。成人後、また30歳から始められた宣教活動の日々の間にイエスの体に触れた人はどれくらいいるでしょうか。

「タリタ・クム」(少女よ、起きなさい)。こう呼びかけられて、

手を取って起こされたのは 12 歳の女の子でした（マルコ 5:41）。もう呼吸は止まり、心臓の鼓動も停止して、次第冷たくなっていく少女の手をイエスの手が握られた。イエスが手を取って起こされたとき、イエスの体の熱は少女に伝わり、少女は息を取り戻し、心臓は脈打ちはじめます。体は体温を取り戻します。

この少女とはわたしのことかもしれない。わたしの手をイエスがとって起こしてくださる。わたしは新しく生きはじめるのです。

イエスが最後の食事を弟子たちとともにされた木曜日の夕方、イエスの手は弟子たちの汚れた足を洗われました。ペテロはそのとき言いました。

「わたしの足など、決して洗わないでください」ヨハネ 13:8
それに対してイエスは言われました。

「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」

冷たい水と温かいイエスの手によって、ペテロは清められました。

そのとき、ペテロはまだ、自分が清められなくてはならない者であるとはおそらく知らなかった。謙遜の陰に誇りが、傲慢が隠れていたのかもしれませんが。けれどもイエスの手はペテロの足に触れて、これまでのペテロの過ちだけではなく、将来の罪まで赦し清めてくださったのです。

翌日の金曜日、十字架につけられたイエスの体から血が流れ、午後 3 時頃、イエスは息を引き取られました。日没前、アリマタ

ヤのヨセフたちは、イエスの体を十字架から抱きかかえて降ろしました（ヨハネ 19:38-39）。イエスの体は次第に硬く冷たくなっていきます。しかしその体を十字架から降ろして墓に葬ったアリマタヤのヨセフたちの心と体は、悲しみに満たされつつもイエスへの愛に燃えていました。

そして日曜日の朝早く、イエスの墓に行ったマグダラのマリアはイエスに出会います。墓に天使が現れ、主の復活を告げます。仲間に弟子たちのところに急ぐ彼女を、イエスが待っておられました。彼女はイエスの足にすがりつきました（マタイ 27:9）。復活のイエスはつかみどころのない存在ではなく、体を持った確かな生きた存在です。

イエスの体に触れた人を何人かたどってみました。マリアとヨセフ、12歳の少女、弟子たちの中のペテロ、アリマタヤのヨセフ、そしてマグダラのマリア。

肉となり、心と体をもって地上の生涯を始められた方は、心と体をもって人々に出会われた。ただ過去にそのような人たちがいたというだけではなく、わたしたちも、心と体をもったイエスに、わたしたちの心と体をもって出会うことを許されているのです。

わたしたちを招き、わたしたちに出会うためにおいでになった方に、新しい年、もっとしっかりともっとはっきりと出会うことができますように。